

# 平成28年度 第3回宮城県産業教育審議会会議録

I 日 時 平成28年10月28日(金)  
午後2時から午後4時45分まで

II 会 場 宮城県登米総合産業高等学校 会議室  
登米市中田町上沼字北桜場233番地1

## III 次 第

### 1 開 会

### 2 あいさつ

宮城県教育委員会教育長

宮城県登米総合産業高等学校長

### 3 宮城県産業教育審議会委員について

### 4 視 察

- ・授業参観，施設見学
- ・登米総合産業高等学校の取組説明

### 5 議 事

#### (1) 報 告

第2回産業教育審議会補足説明

#### (2) 審 議

最終提言骨子(案)について

### 6 その他

- ・平成28年度みやぎ産業教育フェア「さんフェア宮城2016」について
- ・今後のスケジュールについて

### 7 閉 会

## 【配布資料一覧】

- 資料1 最終提言骨子(案)関係資料
- 資料2 参考資料(第2回産業教育審議会補足説明資料)
- 資料3 関係資料
- 資料4 宮城県産業教育審議会のスケジュール
- 別袋 登米総合産業高等学校関係資料一式
- 別冊 宮城県産業教育審議会中間提言(平成28年6月)
- 別紙 平成28年度みやぎ産業教育フェア「さんフェア宮城2016」チラシ

## 平成28年度 第3回宮城県産業教育審議会

進行

(事務局 太田祐一)

委員の皆様、本日は御多用のところ御出席をいただきまして、大変ありがとうございます。開会に先立ちまして、本日の資料並びに日程の説明をさせていただきます。まずお手元の資料の確認をお願いいたします。はじめに①開催要項一枚もの、次第と資料の一覧が記載されております。続いて 宮城県産業教育審議会委員名簿、裏面は座席を示しました会場図、次に③資料1 最終提言骨子案とあります綴込資料、次に④資料2 一番上が「宮城県における総合学科の変遷」と記載されている綴込資料、次に右上に⑤資料3と記載されている関係資料を綴じ込んだ資料、次に⑥資料4 宮城県産業教育審議会のスケジュール資料、⑦袋にまとまって入っている資料は、登米総合産業高校の取組状況説明資料をはじめ関係資料一式となります。8点目、別冊資料、平成28年6月にいただきました中間提言、9点目、さんフェア宮城のカラー刷りのチラシ、最後に産業教育審議会意見用紙と記載されておりますFAX様式となります。

次に、本日の日程についてご説明いたします。配付の要項の次第をご覧ください。このとおり進めて参りたいと思います。審議会終了時刻は午後4時45分を予定しております。その後、公用車にて県庁まで向かい、県庁到着は午後6時半頃を予定しております。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、本審議会は、資料3とじ込み資料の3ページのとおり情報公開条例19条に基づき、公開となりますので、よろしくお願いいたします。

1 開会

それでは、只今から平成28年度第3回宮城県産業教育審議会を開会いたします。

2 開会あいさつ

2 開会あいさつ

宮城県教育委員会教育長 が挨拶申し上げるところですが、本日は代わって教育庁教育監兼教育次長 鈴木 洋 が挨拶を申し上げます。

鈴木洋教育監兼教育次長

平成28年度第3回宮城県産業教育審議会の開催にあたり、一言御挨拶申し上げます。皆様には日ごろより、本県産業教育の充実・発展のために御支援・御協力を賜りまして、深く感謝申し上げます。また、このたびは委員任期満了に伴い、大変御多忙のところ、改めて本審議会の委員を快くお引き受けいただき、心からお礼申し上げます。

さて、本審議会には、本年6月に、「今後の専門学科・専門高校の目指すべき方向性」として特に震災被害の大きかった農業高校と水産系高校について中間提言をいただきました。農業高校、水産高校、気仙沼向洋高校の3校ともに平成30年4月に新校舎での授業スタートを目途に進めているところですが、この中間提言の内容を踏まえ、具体的な施策として実現に移していくよう、県教育委員会として全力をあげ取り組んで参りた

鈴木洋教育監兼教育次長

いと考えております。また、今年度末には専門教育全ての領域について、震災後の地域復興を視野に入れた今後の専門学科・専門高校の目指すべき方向性について最終提言としてとりまとめをいただきたいと考えておりますので、引き続き御審議を賜りますようお願い申し上げます。本日は県内初の総合産業高校として昨年度開校しました、登米総合産業高校を会場に、視察も兼ねた内容であります。委員の皆様にはこの機会に学校の取組状況を御覧いただきますとともに、最終提言骨子案について事務局より説明させていただきますので、専門的見地から御意見を頂戴したいと考えております。被災地の産業の復興を支える人づくりは本県教育の大きなテーマであります。本県における産業教育の充実・発展のために、本日も忌憚のない御意見をいただきますようお願い申し上げます。御挨拶といたします。

進行  
(事務局 太田祐一)

続いて、本日会場となります宮城県登米総合産業高等学校校長 鈴木 琢也 が挨拶を申し上げます。

鈴木琢也校長

本日はようこそ登米総合産業高校へおいでいただきました。校長の鈴木でございます。本校は平成22年3月に策定、公表されました「新県立高校将来構想」第1次実施計画によりまして、地域の産業界に貢献する、志を持った産業人を育成する高校として、登米市内の職業系専門高校であった上沼高校、米山高校、米谷工業高校の3校と登米高校の商業科を統合して昨年4月に開校いたしました。現在の1・2年生は農業科、機械科、電気科、情報技術科、商業科、そして県立高校で初めて設置となりました福祉科の6学科の構成となっております。現在の3年生は、統合前の各学校の6学科7学級で構成されております。本校の特色は、学科間連携、地域連携、専門性の深化の3つを掲げております。社会が大きく変化する現代においては、特定の専門的な知識・技能の育成とともに多様な職業に対応しうる幅広い能力や態度の育成が求められています。こうしたニーズに対応するために生徒が特定の学科に所属して専門性を深めながら、一定の範囲内で他の専門学科の学習もできるというのが総合産業高校の大きな特長となります。この学科間連携、地域連携を柱とした本校独自の学校設定教科・科目を設置しておりますが、この中で他学科の基本的な内容を学習したり、地域企業の見学、あるいは地域の方に来ていただいての専門講話、学科を越えて地域課題を研究すること等に取り組んでいる状況です。また、専門性の深化を図るためにこれまでの就業体験的なインターンシップに加えて、所属する学科にこだわった事業所におけるインターンシップ、こちらを本校では専門インターンシップとしており、このことに取り組むことによってより専門性を深化させたいと考えております。詳しい取組状況については、この後の校内視察の後に詳しく説明させていただきます。さて、統合によりまして校舎が新築となり今年6月には全てのグラウンドも完成しまして、本格的に学校がスタートしたところです。統合前に

鈴木琢也校長

は人数が少なく満足な活動ができなかった部活動が活性化されたり、新たに設置した部活動もあります。それぞれ皆一生懸命に活動しており、中にはインターハイや東北大会に出場した部活動がある状況です。また本校では、各専門学科6学科にちなんだ部活動、農業部、機械工作部、電気工作部、情報研究部、商業部、福祉部の6つの部活動が設置されており、学科を越えて入部できるということで、例えば機械工作部に農業科の生徒が所属するとか福祉部に情報技術科の生徒が入部する等、学科を越えて活動できるということは本校ならではの取組であります。また、この部活動以外にも農業クラブ活動や、工業系学科のものづくりコンテストなどでも幅広く活躍しております。校内行事としてはグラウンドも完成しましたので、今年7月に校内の施設だけを使用してスポーツ大会を実施しました。また、つい先日には文化祭を開催しましたが、地域のたくさんの方々にお願いいただきまして、農作物の販売では開始前から列を作る等にぎわいました。本当に地域の方々の期待が大きいことを改めて感じたところです。この後、校内施設をゆっくり御覧いただき、その後、本校の取組について詳しく説明させていただきます。どうぞ本日はよろしくお願いたします。

進行  
(事務局 太田祐一)

続きまして、本日御出席の委員の皆様につきまして、お手元の名簿順に御紹介させていただきます。

宮城県農業協同組合中央会常務理事	竹中 智夫	委員でございます。
東北大学大学院 教授	伊藤 房雄	委員でございます。
宮城教育大学教授	本岡 愛実	委員でございます。
東北福祉大学教授	塩村 公子	委員でございます。
宮城県松山高等学校校長	栗野 琴絵	委員でございます。

なお、間庭洋委員、及川公一委員、引地智恵委員、小野秀悦委員、菅原一博委員、平本福子委員、高橋 裕喜委員は御欠席となっております。

続きまして、本日の会場となります登米総合産業高校の職員をご紹介します。

鈴木 琢也 校長でございます  
秋山 幸弘 教頭でございます。  
大竹 博行 教頭でございます。

続いて、宮城県教育委員会の主な職員を紹介いたします。

教育庁教育監兼教育次長 鈴木 洋 でございます。  
高校教育課長 岡 邦広 でございます。以上でございます。

3 審議会委員について  
事務局 黒田賢一

それでは、3 宮城県産業教育審議会委員について、事務局からお願いします。

委員の皆さまにおかれましては、本日は、8月に新たに委嘱され最初の会合となります。委嘱状については既にお送りさせていただいておりましたが、このたび新規委員と

して、宮城県松山高等学校長の栗野琴絵 委員が加わりましたので、委員の皆さまを代表して委嘱状をお渡しさせていただきます。

栗野琴絵委員

宮城県松山高等学校校長の栗野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。国語の教員でございます。以前、工業高校での勤務経験がございまして、その後、教育委員会勤務の際は実業高校の先生方を対象とした企業研修等の立ち上げ当初の担当をしておりました。縁あって今年の4月から家政科のあります松山高校に赴任いたしました。専門学科出身ではない視点で、いろいろな点に気付いていければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局 黒田賢一

それでは、お手元の産業教育審議会の資料3の2ページをお開きください。産業教育審議会規則第4条により、本審議会の会長及び副会長を、委員の皆様のご互選でお願いしたいと思いますが、いかがいたしましょうか。

竹中智夫委員

事務局案があればお願いします。

事務局 黒田賢一

これまでに引き続き会長を伊藤房雄委員に、副会長を本日欠席となっておりますが、引き続き間庭洋委員にお願いしたいという原案ですがいかがでしょうか。

<異議なし>

異議なしの声がありましたので、会長を伊藤房雄委員に、副会長を間庭洋委員にお願いしたいと思います。それでは、伊藤会長からごあいさつをいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

伊藤房雄会長

只今、本審議会の会長を仰せつかりました東北大学の伊藤でございます。会長就任にあたりまして、一言挨拶を申し上げます。本審議会は、宮城県の産業教育の振興を図るため、教育委員会からの諮問に応じて、産業教育に関する教育の内容や、関連産業界との協力など産業教育全般について審議し、提言や答申という形でお応えするものであります。お手元の資料にもありますが、本年6月に震災被害の大きい農業高校と水産系高校2校の今後の目指すべき方向性について、委員の皆様には多くの貴重な御意見をいただき、中間提言として報告したところです。このように今後の産業教育の方向性についてお応えする本審議会の果たす役割は大変大きいものと考えます。本日は、学校現場を会場としており、高校生の学習の様子をご覧いただくほか、指導する先生方から学校の取組について直接お話を聞くことができるよい機会であります。委員の皆様には、将来、宮城で活躍する人材を育てる活気溢れる産業教育への支援となるよう、それぞれご専門の立場から、忌憚のない御意見をお願いいたしまして挨拶といたします。どうぞよろしくお願いいたします。

進行  
(事務局 太田祐一)

ありがとうございました。

それでは初めに、視察ということで、授業参観と施設見学をいただきます。配布資料に見学教室及び順路がございますのでご確認ください。

ここからご案内を登米総合産業高校の 大竹教頭 をお願いします。

#### 4 視察

大竹博行教頭

※ 授業参観，施設見学

○学校設定科目「起業実践」      ○福祉科授業 を中心に案内いただいた  
また、各学科の施設紹介をいただいた（約40分間）

進行  
(事務局 太田祐一)

委員の皆様 授業参観，施設見学をいただきありがとうございます。

では、平成27年度に宮城県内初の総合産業高校として開校しました登米総合産業高等学校の取組について、秋山教頭にご説明をいただきます。よろしくをお願いします。

秋山幸弘教頭

委員の皆様，見学をいただきありがとうございました。教頭の秋山でございます。私から本校の特色ある教育活動への取組みについてご説明させていただきます。はじめに説明内容ですが，登米地域の特徴と課題，その課題を踏まえた本校の取組，特に登米地域パートナーシップ会議について，続いて本校の教育目標と特色ある教育活動についてご説明させていただきますその後，進路状況について報告いたします。よろしくお願いたします。

本校があります登米市は県北部に位置し，地域を3等分するように北上川，迫川が南北に貫流し，多くの支流が注いでいる他，西部には水鳥の生息地として国際的に重要な，ラムサール条約指定登録湿地の伊豆沼，内沼そして昨今，東京五輪のボート競技会場候補地として有名になっております長沼が位置し，南部には平筒沼を有するなど，豊かな水辺空間が広がっております。また西部が丘陵地帯，東部が山間地帯で，その間は広大で平坦肥沃な耕土を形成し，県内有数の穀倉地帯となっております。この地域は江戸時代から，北上川の舟運と石巻港の海運で，江戸幕府や伊達藩を賄った「本石米」の産地で，江戸に米が登ることから「登米」という地名が残ったと言われております。他にも米山高校があった「米山」，米谷工業高校があった「米谷」，または「米川」など米に由来する地名が多く残っております。登米市は「環境保全米」発祥の地と言われており，本校で栽培している米も化学肥料と農薬を通常の1/2以下に減らした環境保全米であります。また，和牛の産地としても知られており，仙台牛の生産については約4割が登米地域の牛で，養豚も盛んで県内一の産出額を誇ります。このように登米市は農業を基盤産業として発展してきた地域であり，現在は意欲的な農業者による法人化等の新しい取組も進められています。さらに商工業についても，安定した就労の場の提供を図るため，積極的な企業誘致，アグリビジネスの推進などに取組んでいます。しかし，課題として農業については，少子高齢化から後継者不足問題等の

厳しい状況が続いているということと、地域活性化のためには、高齢化社会への対応と市民の定住化、とりわけ若者の定住化が最も必要な緊急性のある課題となっていることがあげられます。その登米地域の課題を踏まえつつ、本校は登米地域の地元企業を中心とする農業、工業、商業、福祉分野等の産業界・行政・教育機関等を委員とする「登米地域パートナーシップ会議」を主催し、特色ある教育活動に対して、積極的な助言や支援をいただきながら強いパートナーシップ関係の構築に努めています。お手元の資料5-1を御覧ください。本校が主催する「登米地域パートナーシップ会議」の設置要項です。この会議の所掌事項は要項第3に記載しているとおり、(1)地域の課題解決に向けた教育活動に関すること、(2)学校から地域への教育資源の提供に関すること、(3)地域における実地研修の実施に関すること、(4)地域から学校への講師等の派遣に関すること、(5)その他、地域と学校とのパートナーシップにおいて必要となる事項、となります。また、パートナーシップ会議の委員は資料5-2に示した方々をお願いをしております。続いて資料5-3を御覧ください。会議構成と開催スケジュールになります。会議構成は「パートナーシップ会議」を親会として、学科間の連携に関することを検討する「学科間連携部会」、そして各専門学科の専門性を高め、登米地域が求める人材の育成に関することを検討する「専門学科連携部会」という農業・工業・商業・福祉の4部会からなります。各会議の開催スケジュールは資料のとおりですが、現在、専門学科連携部会を開催しており、昨日は福祉部会と商業部会を開催いたしました。今後は学科間連携部会を経て、パートナーシップ会議を開催し来年度の教育活動に御意見を反映させることとしています。

さて、本校の概要について説明します。校訓と教育目標は「高志」「挑戦」「創造」です。高い志を持って何事にも果敢に挑戦し、専門的な技能と豊かな人間性を身に付け、独創的な発想力で産業界をリードする人間を育成することを目指しています。教育方針として、1つ目に「学科横断的な幅広い視野で産業界を捉え、高度化・多様化する社会に果敢に挑戦する志高い生徒の育成」を掲げ、御覧のとおり4つ掲げてございます。資料にあります今年度の重点目標については、職員会議のたびに掲げ、再確認しながら全職員で取り組んでおります。

さて、今年度の在籍生徒数です。1・2年生は農業科、機械科、電気科、情報技術科、商業科、福祉科の6学科427名、3年生は上沼高校、米山高校、米谷工業高校の3校から引き継いだ生徒で、学科もそのまま引き継いでおり144名で、全在籍生徒数は男女計573名となっております。

次に本校の特色ある教育活動について資料1を御覧ください。それぞれの教育活動をとおして「実社会に通用する力」を身に付けさせようとしています。本校は、県内公立高校初の総合産業高校であります。もちろん各学科においては、専門の基礎基本から専門的な知識・技能の深化を目指し、インターンシップ等をとおして段階的に体験し、キャリア教育はもとより、専門性の深化を追及します。インターンシップでは、1年生で行われる企業見学と就業体験的なキャリアイン

ターンシップ,そして2年生では希望者が行う自分の専門に関する専門インターンシップがあります。また,複数の専門分野の知識・技能を併せ持つ「実社会に通用する力」を持つ産業スペシャリストの育成を目指すため,学校の独自の科目として開設しました学校設定科目「産業基礎」「総合選択システム」「起業実践」があります。1年次には「産業基礎」で所属する学科以外の基本的な内容を学ぶとともに,職業に関して幅広い興味関心を引き出します。2年次前半には「総合選択システム」で所属学科以外の専門科目を選択学習し,興味関心の幅を広げ広い視野で自分の専門分野を見つめ直します。2年次後半には「起業実践」で共通の課題に対してアイデアの発想法や発表の仕方などを学び,3年次には学科の壁を越えたグループ編成で,地域課題をテーマに地域の方々に指導いただき調査・研究を行うこととしています。

実際の授業の活動内容ですが,今年度の「産業基礎」の学習の流れは,「知る」からはじまり,「学ぶ」「調べる」「見る」「体験する」「まとめる」まで体系的に学習できるよう具体的な指導計画を立てています。昨年も同様の学習内容を実施していましたが,学習の目標が生徒・教員とも徹底されていないのではないかという昨年度の反省から,体系的に学習の繋がりを持たせるために,このような学習体系に整理しました。今年度の農業科生徒の指導計画として,最初に「宮城県全体の経済・産業の状況」と題しまして県経済商工観光部産業人材対策課の鈴木課長補佐より講話をいただき,その後「登米市内の経済・産業の状況」として登米市産業経済部工業振興課の伊藤課長から講話をいただきました。県全体の経済・産業の状況から,地元登米市の状況を対比して考えることができるように計画したものです。また専門講話として,7月には工業分野と福祉分野を,10月には農業分野と商業分野の講演をいただき,いずれもパートナーシップ会議のメンバーの方々に講師を務めていただきました。各産業分野について「知る」ということをねらいとして全学科の生徒が,全ての分野を受講しています。他学科の学習内容を学ぶということについては,例えば農業科の生徒が機械科,電気科,情報技術科,福祉科の授業をそれぞれ年に6回ずつ受講し,それぞれの専門分野が産業の中でどのような役割を果たしているかを学びます。各学科2~3のグループに分かれ,自分の専門分野の企業と他の専門分野の企業を見学し,実際の産業現場を見て,様々な気付きを得ています。その内容については,生徒が文化祭で発表し,多くの方々に御覧いただきました。このように見聞を広げることで,産業界を広い視野で捉える力や革新的な創造に繋がることを期待しています。

続いて2年次前期に実施される「総合選択システム」について説明します。今年度は4月から9月まで週2時間の展開で,既に終了しています。「総合選択システム」とは,所属する学科以外の興味ある専門科目を選択して学習できるシステムです。各学科が2~3科目の独自の専門科目として設定しており,例えば機械科,電気科,情報技術科の生徒は工業科目以外の農業科,商業科,福祉科の専門科目から選択します。資格取得の導入となる科目もあり,資格取得を目指す生徒

は火曜日の放課後ゼミと連動して合格を目指しています。数は多くはありませんが他の専門分野の資格を取得している生徒もでております。

これらの取組について生徒と教員のアンケート結果をみると、肯定的な意見と否定的な意見がありますが、概ね選択の理由が明確な生徒は肯定的な意見が多く、消極的な選択をしてしまった生徒は否定的な意見があるという状況が伺えました。しかし、興味・関心の幅を広げることには効果があったと思います。今回のアンケートは記述式であったため定量的な評価はできませんでしたが、今後は肯定的意見と否定的意見の割合を数値化して定量的に判断できるようになる予定です。

続いて、2年後期から3年次で取組む「起業実践」の授業内容について説明します。授業では意見を出しやすいように学科、つまりクラス内でチームを作り活動します。全学年に共通の課題を提示し、起業家教育について理解し、アイデアの出し方やプレゼンテーションの仕方について模擬研究をとおして学び、チームワークを高めます。具体的な指導計画は資料4-2を御覧ください。今年度は「地元の資源を調査・活用して、新たな価値あるものを創造し提案せよ」という共通の研究テーマに取組みます。本日、授業参観をいただいたのは「チーム理念を考える事前調査」の活動でした。今後は2月に代表チームが校内学習発表会においてアイデアをプレゼンすることになっています。3年次では、学科の壁を越えたグループ編成で地域課題をテーマに、地域の方々に指導をいただき調査・研究を行うことを計画しています。来年度から始まる取組ですが、現在、パートナーシップ会議で意見をいただきながら検討・準備を進めています。指導者は、教員のほか、地域の方々にも協力をお願いしようと考えており、現在、地域協力者として12事業所から快諾を得ている状況です。

続いて、専門インターンシップについて説明します。これは、単なる就業体験的なインターンシップではなく、自身の専門性の進化を目指すもので今年度初めての取組となっております。2年生の希望者を対象生徒としてスタートしました。既に農業科以外の5学科は実施済みで、授業で学んだ専門の知識がどのように生かされるのかを見聞し体験することにより、知識・技能の深化、学ぶ意欲に繋がることを期待しています。以上、本校の特色ある教育活動のうち、カリキュラムに位置づけられた教育活動について御紹介をさせていただきました。

最後に、本校の今年度の進路状況について御紹介します。10月25日現在のデータとして、3学年144名のうち就職希望が101名で約70%、進学希望者が42名で約30%となっております。進学については今後、本格的に出願となります。就職については、学校斡旋希望者96名のうち78名、81%が内定をいただいております。昨年と比較し非常に好調ですが、就職希望ではあるものの出願先が未定の者が13名、進路未定者が1名おります。今後も進路決定100%を目指し、進路指導の充実を図ってまいりたいと思います。以上で、本校の特色ある教育活動への取組についての説明を終了します。

進行  
(事務局 太田祐一)

ご説明ありがとうございました。先ほどは授業の参観と施設の見学をさせていただき、今、改めて取組について説明をいただきましたが、各委員のみなさまからご質問、ご感想等あればお願いします。

伊藤房雄会長

開校2年目ということで、皆さん試行錯誤の日々で大変かと思います。産業に関わる授業内容では実習も多いと思いますが、その中でのトラブルや事故に対しては、迅速な解決に向け対応しなければならないと思います。実際にこの1年半での事故対応などあったか、また、たくさんの特徴ある取組の中で、地域企業との連携や社会の現場を訪問したり、学校に来校いただいたり、パートナーシップ会議等について実際に取組んでみて負担になっていること、どのように負担になっているのかなどお聞かせ願います。

鈴木琢也校長

大きな事故については今のところありませんが、登米地域パートナーシップ会議で話題になったのは、生徒が実習日に急に休んだケースについて指摘されました。統合することで何が大変だったかという、机上で計画を作るのはよいのですが実際に集まった子供達を前に指導すると、想定していないことも多くありました。特に感じていることは、学科間での学力差が非常に大きく、考査平均点では、高いクラスと低いクラスでは20点程差がでることもあり、指導が非常に難しいところがあります。また、統合によって大変なことは、例えば上沼高校、米山高校、米谷工業高校それぞれの指導方法を1つ1つ確認しながら生徒を指導していくことはかなり時間がかかります。開校してから実際の指導を通して、摺り合わせの難しさに改めて気付きました。また、最近、子供達の質が変わってきており、子供達への対応が非常に難しくなっています。それぞれの学校から集まってきた生徒達の情報を共有するのが教員数も多く困難でした。そのために去年は生徒達がストレスを溜め不安になることがたくさんありました。

特色ある教育活動を進めるにあたっては、登米地域パートナーシップ会議で検討をしてみました。私は、平成23年度から開校準備に関わってきましたが、最初にしたことは地域の企業回りでした。地域の課題やどのような学校にしたいかという地域の声を聞いていく中で、パートナーシップ会議に繋がりました。いろいろな注文、意見が出されますが裏を返せば、それは学校へ対する期待がとても大きいということです。地域の皆さんはこの取組が成功することにより、良い人材が地元で頑張ってくれるだろうとの思いで、協力していただいております。登米地域パートナーシップ会議を平成25年度に立ち上げましたが、旅費等の準備もない中、お忙しいところご出席いただきご意見を頂戴したり、インターンシップについても地域に貢献するためと快く受入れていただきました。例えばインターンシップで生徒達が訪問することが、会社にとっても社員教育となり、若手社員が高校生に教え接すること等がよい機会となるというお話しをいただくと、お互いにより関係となっていることを感じます。地域の皆さんにはたくさんのご協力をいただいておりますが、このように良い関係を作るまでには時間がかかります。

鈴木琢也校長

ますし、繋いでいかなければと感じております。

伊藤房雄会長

今お話いただいたような取組を重ね、総合産業高校の色を出すには時間はかかるかと思えます。ただ、10年のスパンで考えた時に着実に卒業生を輩出していき、特に1期生や2期生は生徒も先生方も力が入ることと思えます。その生徒達が様々な志を持って管内に就職し働き始め、地元に残る卒業生が3年目、4年目となり、そこを1つの繋がりとするともたいろいろな展開ができるのではと思ひながら伺っていました。

本図愛実委員

お話を伺ったり、施設を拝見しまして、外的なものにすごくお金がかけられていて、このことは様々な期待の表れだと感じました。先生方はたくさんのご苦勞をされていることと思えますが、子供達はこの明るい素晴らしい校舎や設備の中で、皆さんがいい学校を作っていこうとしていることが伝わっていることだろうと思ひました。この地域の期待、県教育委員会の期待、皆さんの期待を来ただけで感じる事ができました。今、校長先生からは苦勞して積み上げている時期だというお話を伺いました。大変な中とは思ひますが、要望として、深い学び、それぞれの学科で生徒達がどのように活用から探究に向け自分達で進んでいけるようにするかということ、今お話を伺った「産業基礎」の学習は、まさに先生方が手順としてそのことを示されておりました。これから積み上げていく中で、学びの質でもそれぞれの学科の特色を活かして子供達が少しでも自立的に、この整った良い学習環境の中で、対話的で主体的な学びができていることを先生方からも促していただき、先生方にもご研究していただきたいと思ひます。今、国ではそのことをアクティブラーニングと言っておりますが、先生方がその土台を作っておられているので、国策でいわれるよりも1歩も2歩も宮城県の総合産業高校は進んでいるのだという発信になるようにおまとめいただければと思ひます。本日、先生方がその土台を作っておられて素晴らしいと思ひましたし、パートナーシップ会議も素晴らしい取組なので、研究してまとめていただくといいかと思ひました。先生方のご努力が、本日2時間位お邪魔しただけでもひしひしと感ずるところがございましたので、なお頑張ってくださいましたと思ひました。

塩村公子委員

福祉の方でお話を伺いたいと思ひます。問題意識については大学の方とも共有できると思ひますが、介護のコースについて大学でもございしますが、全国の大学の介護系の受験生は減っておりまして、介護福祉士養成のコースを廃止するところが出ております。介護の勉強をして地元の介護の職に就いてくれるかどうかということについて、先ほどのパートナーシップ会議の説明でもありました。地元は期待しておられますが、思っていたとおり地元で介護職で就職してくれるかということに関するお話と、また、学力差が出ているというお話がありました。大学でも危機感を少し持っているのは介護の労働人口が足りないということで

塩村公子委員

外国から研修生（人材）が入って来た時に、私達だと大学で学ぶ介護福祉士のメリットは何か、またこちらの様に高校の福祉科を修了した人たちのメリットは何かということについて考えていかないと同じ競走の場に立つ事になってしまうと、特色が出ないというかそのようなところの危機感を共有できるのかと思うのですが、その辺りで何かお考えはあるでしょうか。

鈴木琢也校長

地元の就職について、福祉科はまだ2年生までしか在籍していないのでどうなるかはわかりませんが、福祉科の志願者は定員を満たしていない状況です。40人募集して40人は出願してこないです。また、中学校の時に欠席が多い生徒は、実習等で対応が難しいと感じています。就職に向けての手応えについては福祉科長から何かありますか。

佐藤春子教諭

私たちも手探りで進めているところもありますが、介護職を目指すということではいろいろな人との関わりをきちんと持てるように育てたいという思いで授業をしておりますし、そのことは介護に繋がると思います。また、最初から地元で介護の職に就きたいという志望の生徒は半分以上はいると思います。

塩村公子委員

もう1つの質問内容については、大卒の介護福祉士のメリットとして考えていることは、例えばITと介護、医療的な知識がきちんと身についている介護福祉士、あるいは介護福祉士の中でも指導者となれるような人材を育成するなど、大学で学んだことのメリットをきちんと作らなければいけないと考えております。高校はもちろん、外国からも介護の人材が入ってくると介護の技術だけではなく競走関係になってしまいそれだけではやっていけない部分が出てくるということで、その時にどのように差別化を図るのかということところです。また、例えば大学生活を考えていただくと基礎学力や基本的な友人関係がきちんとできるような人材でなければいけないと思います。このように介護について世界や日本の動きをみて何かお考えなどがあればお聞きしたいと思いました。

佐藤春子教諭

個人的な意見になるかもしれませんが、養成校の中だけで考えることがなかなか難しいところがあり、現在、介護業界では女子でも男子でも、就職した1、2年目の人材と5年、10年目の人材であっても仕事の内容が結局同じというところがあります。介護業界での職のあり方について、高卒者が10年働いても大卒者が10年働いても、男子でも女子でも仕事の中身が同じというところがあり、そこは養成校だけの問題ではなく難しいところだと感じています。

塩村公子委員

キャリアパスについての問題ですね。お話を伺って、応募してくる人数も定員割れする中で、世の中では介護の人材が必要とされているわけですからそのギャップがどのようなかたちで埋められるか等大学と問題意識を共有できるとこ

塩村公子委員

ろがあると感じました。

竹中智夫委員

みやぎ登米農業協同組合さんへの見学はあるようですが、パートナーシップ会議に入っていないことは残念に思います。こちらの学校要覧を見させていただくと、登米総合産業高校はこの地域の中学校の1つの延長上にある学校なのだと感じました。ある程度生徒数がなければ部活動にしても成り立たないわけで、例えば地域で米谷工業さんだけを残して全て工業科にするというわけにはいかないですし、それぞれの学校がまとまったことは非常に良かったと思います。少子化の中でひとつの地方の形かなと感じました。また、県外の子供も入学しているようですし、少しずつこの良さが広まってきているのかと思います。JAでは大卒も高卒も採用しますが、どちらかという大卒者の離職率の方が高いです。大卒者は、自分にはもっといい職場があるのではと考える者も多いのか、高卒者はまじめに取り組む者が多いと感じています。大卒者は3割以上が転職しますが高卒者は少ないですし地元志向が強いです。就職状況を見させていただき、我々も県内に残っていただきたいという思いがありますし、県内の企業に伝えていくことが大事かと思います。今後、非常に期待しておりますので、頑張ってください。

進行

(事務局 太田祐一)

それでは、このあたりで、登米総合産業高校の視察の内容について終了したいと思います。ありがとうございました。

5議事にうつります。資料3の2ページの産業教育審議会規則第5条により、会長が議長を務めることになっておりますので、伊藤会長に議長をお願いいたします。

5議事(1)報告

伊藤房雄会長

では、暫時の間議長を務めさせていただきます。皆様のご協力をお願いします。

それでは、(1)報告について事務局から説明をお願いします。

事務局 黒田賢一

事務局の黒田です。よろしくお願いいたします。では、資料2を御覧ください。

前回の審議会の時に委員のみなさまから質問いただいたものについて、全てを網羅してはおりませんが用意しましたので簡単に説明させていただきます。前回の審議会で総合学科について触れましたが、宮城県の総合学科の状況についてまとめたものが1ページ目です。宮城県では平成7年度から総合学科が順次作られました。資料の見方は、例えば村田高校ですと、もともとは普通科、自動車科、電子機械科、家政科それぞれ1クラスずつあったのが平成7年度に学年4クラスの総合学科になりました。かつこの中は設定している系列で、工業系、商業系、福祉系列ができました。平成18年度からは4クラスが3クラスになったという見方になります。もう一点、宮城野高校は開校時に進学型の総合学科ということで設置し、他に普通科4クラスと美術科もあります。宮城野高校以外の総合学科は、全て産業系の学科のあった学校が総合学科に変わっているとい

うことです。特徴と課題としては、1年生で「産業社会と人間」という学校設定科目を学び、2年生から系列の選択に入るのが一般的です。2年生からですので専門の学びが約20単位程度で、通常、専門学科は25単位以上を履修することになっていますので、その程度の時間数の学習となるため専門性の深化をさせにくいということがあげられます。また、学校の規模が段々縮小されると、多くの講座が作れなくなり生徒の選択の自由度が減るとか、進路変更があった場合に系列替えの対応が難しい等の課題があります。

次に、「地域連携や学校間連携」の取組で主なものをあげました。工業系の学校では出前授業を実施する等の地域に貢献した取組、商業系では地域連携協議会といった組織を作り取組んでいるところが多いです。また、石巻地区では「石巻まるっと高高連携」という地区の専門学科5校が学校間連携した取組があります。そして先ほどの説明にもありました登米総合産業高校では地域のパートナーシップ会議を行っています。

3ページ目は平成27年度のインターンシップの取組状況で、県全体では66.7%の学校が実施しています。全日制の専門学科については100%の学校が実施していますが、普通科高校ではなかなかインターンシップが進まない状況です。特徴的なインターンシップの取組では、気仙沼向洋高校の工業科では「弟子入りインターンシップ」で10日間、一迫商業高校では1年間通してデュアルシステムということで取組んでいます。また、松島高校の1カ月間住込みのホテル実習や、登米総合産業高校の1年次のキャリアインターンシップと2年次の専門インターンシップを紹介しております。

4ページ目は平成28年3月卒業生の就職状況で4ページ目が産業別の表となります。求人数は年度末の数を載せていますが、就職希望者数は平成27年7月の希望となっており、右側は学科別の内定者数です。網掛けの部分は学科の学びに関する産業ということで、例えば農業科は産業別でいうと“農業、林業”を6名の生徒が希望しており、年度末には14名が就職したとみることができます。基本的にはこのような見方をいただければと思います。特徴的なところでは工業系、ものづくり産業が多いということで製造業、建設業の求人数は多いですし就職にも繋がっています。表の右下には学科ごとに就職者の割合をお示ししました。普通科は就職者の割合は13.1%ですが専門学科については半分以上が就職者となっております。総合学科は48.1%で専門学科より若干就職者の数が少ないですが、宮城野高校のような普通科系の総合学科を除けば半分は超えるかと思えます。5ページ目は職業別の表で、こちらも学科に関係が深い職種に網掛けをしており、例えば商業系ですと事務、販売、サービスに網掛けとなっています。この表から、例えば工業系は合計で1,101名の生徒が就職をしていて、そのうちの76.4%は工業の学びが活かされた職業に就いたという見方ができます。看護については5年一貫校となりますので、専攻科の生徒数となっております全員が看護の職業に就いています。参考までに、昨年の卒業生の県内、県外別の就職状況も載せましたが、宮城県の県内・県外の就職割合は全国と同じ値となっております。

6, 7ページの奨学金については資料をご覧ください。

伊藤房雄会長	務局から資料と説明がありました。ご質問等ありましたらお願いします。
竹中智夫委員	1 ページの総合学科の例えば伊具高校や本吉響き高校で、4 クラスから 3 クラスというようにクラスが減った際に農業、工業、商業、福祉のどれかクラスを辞められたということですか。
事務局 黒田賢一	総合学科の農業、工業等は系列といいまして、例えば本吉響高校ですと 4 クラスありますが、系列は 5 つあるという見方になります。つまり、クラス数が減っても系列はそのままの規模で残っています。クラス=系列ではなく、5 つの系列から生徒が選択するということです。
竹中智夫委員	クラス別で系列があるのではなく同じクラスの中に、私は農業を選ぶとか、工業を選ぶというようにいろいろな希望の生徒がいるということですか。
事務局 黒田賢一	はい。そのようになります。
伊藤房雄会長	他いかがでしょうか。平成 28 年 3 月の卒業生の就職状況が出ていますが、県内、県外の就職率については確認できました。定着率はどうなのかという話になると問題がたくさんありそうですが、県内の定着率はいかがなのでしょう。
事務局 黒田賢一	宮城県の今持っているデータは、3 年以内の離職率は 42.5% で、これは平成 24 年度の卒業生が 3 年経過後のデータです。新しい数値が全国発表されたようですが、県内の状況も近々公表予定です。おそらく若干減り、4 割程度になると思います。
岡邦広 高校教育課長	補足ですが、その 4 割という数値は宮城県の高校生という意味ではなく、宮城県に就職した方々の離職率になります。山形出身で宮城に就職した等、他県出身でも宮城に就職した人の離職率で、宮城県の高校生の実態は数字としてははっきりつかめていないのが現状です。
伊藤房雄会長	難しいと感じるところは、有効求人倍率が高い状況が今後も続く中で、どのようにして定着したり地域の産業を支える人材になるのかを考えると数字だけではみえないところがあります。今日も視察で地元の雇用先、受け入れ先との関係をうまく作ることが大切かと思いました。
鈴木洋 教育監兼教育次長	宮城県は入社して 3 年以内の離職率が高いということで、労働局とタイアップしてなぜ辞めるのか理由を掘り起こしたところ、1 番多い理由が人間関係のこじれで職場を離れてしまうということで、就職したあとの人間関係づくり、入社し

鈴木洋 教育監兼  
教育次長

てからのコミュニケーション能力を図るような取組の導入をお願いしております。先ほど本図先生からもアクティブラーニングのお話をいただきましたが、学校においても、これまでの一方的な講義でインプットして終わる学習からお互いに自分の学びをアウトプットしながらまた新たな学びを作りあげていくというアクティブラーニングの中で、コミュニケーション能力も培われていくのではないかと、今またはこれから取組んでいく中で学校も企業さんもコミュニケーション能力を高める努力をしないといけないと離職を減らすことに結びつかないのではということもひとつ考えているところです。

5 議事(2) 審議  
伊藤房雄会長

それでは次に、(2) 審議「最終提言骨子(案)について」ということで、本日の審議の進め方について事務局から説明をお願いします。

事務局 都築美幸

事務局の都築です。よろしくお願いたします。前回、第2回の審議会では農業高校と水産系高校の目指すべき方向性として中間提言をいただきました。その後、農業と水産も含む全ての専門学科の取組状況について、専門委員会の調査まとめについて、担当指導主事より説明をさせていただき、委員の皆様よりご質問・ご意見をいただいたところです。9月30日には今年度2回目の専門委員会を開催し、全ての学科で共通となる、専門分野を生かした各学科の取り組みや課題について協議しました。その協議を参考に、今後の専門学科・専門高校の目指すべき方向性について、大きく3つの柱とし、最終提言骨子案を、本日は提案させていただきます。まずは説明をさせていただき、その後、委員の皆様から質問や御意見をいただきたいと考えております。よろしくお願いたします。

伊藤房雄会長

只今、事務局から説明のあったとおりに進めて行きたいと思いますが、よろしいでしょうか。(異議なしの声)

では、事務局から「最終提言骨子案」について説明をお願いします。

事務局 都築美幸

では、資料1の最終提言骨子(案)「今後の専門学科・専門高校の目指すべき方向性～震災後の地域復興を視野に入れた専門教育の在り方について～」をご説明いたします。資料を御覧下さい。資料は、まず柱となるもの、そして四角で囲んだ部分が提言、その下に専門委員の調査からみえた専門学科・専門高校の現状と課題を示したものとなります。

では、1つ目は、**志教育の推進 ～専門学科の特長や地域の教育力を活かした連携・協働の取組について～**とし、宮城県の学校教育の重点となっております内容としました。現状と課題に示しましたが、各学科において様々な異校種との連携や地域や企業、関係団体との連携活動とその活動をとおり、様々な効果や生徒の学びや成長につながっていることから、

**『地域や異校種の学校、関係団体等との連携・協働による活動をとおり、コミュニケ**

ーション能力や規範意識、倫理観を醸成し、豊かな人間性を育成する。さらに、変化の激しい社会に対応できる課題解決能力や創造力を備え、社会的・職業的自立を果たした将来の宮城を担う人材の育成が望まれる。』という骨子案を作成しました。

3 ページをご覧ください。2 つ目は **職業教育の充実 ～専門分野の高度化への対応と将来のスペシャリストの育成に向けた取組～** としました。現状と課題に示しましたが、専門的な知識や技術の定着を図ることや、専門分野を深化させたり学習意識の向上につなげることを目的に、各学科において資格取得や各種検定試験、研究発表大会への挑戦がなされています。また、上級学校や企業との連携の取組はなされていますが、更に連携を強めることで、生徒の専門分野の深化や教員の資質向上を図る必要があるという課題をうけ、2 つめの提言として

『**職業の多様化や職業人として求められる知識・技術の高度化に対応した、生産から消費までの広い分野での学習を視野にいた実践的な教育が求められる。そのために、地域や産業界、上級学校の優れた外部人材との連携・協働、先端の情報による生徒の実践力や教職員の資質向上を目指した研修機会の確保や、計画的に施設・設備の充実を図り、環境を整えることが求められる。**』という骨子案を作成しました。

5 ページをご覧ください。3 つ目は、**グローバル化への対応 ～震災後の地域復興と地域産業の発展を支える人材の育成～** としました。グローバル化への対応については、各学科なかなか全体での取組まで達しておらず、それが課題としてあげられたこと、また今後その取組をとおして震災後の地域の復興を担う人材育成の強化が望まれることから

『**起業家精神や起業家的資質・能力を育み、その学習内容からグローバルな視点で捉える力を育成する取組が求められる。国外から訪れた人々や海外に進出している企業等との交流により、多様な価値観を持った人々と連携・協働する中で国際的な視点を養い、将来の地域活性化や地域産業を支える人材の育成が望まれる。**』という骨子案を作成しました。

以上、最終提言骨子案の提案でございます。ご審議よろしくお願い致します。

伊藤房雄会長

ありがとうございました。只今の事務局からの説明について、時間も限られておりますので、御質問や御意見についてあわせてで構いませんので、委員の皆さんよりいただきたいと思えます。専門分野はもちろんですが、専門外の部分でも構いませんので、お気づきになった点などご意見をいただきたいと思えます。よろしくお願ひします。

伊藤房雄会長

資料1 骨子案について、1 番目が「志教育の推進」ということで、志を持った生徒を教育するために地域の教育資源、教育力を活かしましょうということ、2 番目の「職業教育の充実」では将来のスペシャリストの育成にむけて、教員の資質向上の取組も必要だという内容、3 番目は「グローバル化への対応」ということで、この内容は今日の視察と対比してみると、ホップ・ステップの次のジャンプにあたる部分が、登米総合産業高校の場合には生徒の出口だったと思えます。それに対して、今回の案の「グローバル化への対応」は、ホップ・ステップ・棒高飛びという感じで、急にハードルが高くなり

伊藤房雄会長	大変な気がしました。案のとりまとめについて事務局でもご苦労されたと思いますが、副題の～震災後の地域復興と地域産業の発展を支える人材の育成～についても重要な文言が多く含まれているように思ひまして、こちらの副題をメインとしてグローバル化への対応をサブとした方が落ち着きがいいように感じました。事務局でご検討いただければと思います。
竹中智夫委員	グローバル化については確かにハードルが高いように感じます。
伊藤房雄会長	農業高校と水産系高校の中間提言はそれぞれ3つの提言でしたが、今回の最終提言骨子案も「今後の専門学科・専門高校の目指すべき方向性」ということで、3つの柱でまとめてあり、違和感なく整合性もとれていると感じました。
本図愛実委員	会長がお話されたことについて、もっともだと思ひましたのでご検討いただければと思います。とはいえ、農業高校や松島高校に視察した際に、グローバル化の取組について、事務局でも応援したいということがあったかと思うので、それを含めてご検討いただければと思ひました。また、「職業教育の充実」のところに入るのかと思ひますが、学びの質の充実について先ほども申しましたが、主体的で対話的な学びについて、なおいっそう見直していきましようということを入れていただいてもよいのではと思ひました。ご検討いただければと思います。
塩村公子委員	2ページの2つ目の内容についてですが、“通常の教育活動と企業との時間調整”とは、企業と連携するために使う時間なのか企業と調整する時間なのか、文言について整理が必要かと思ひます。
伊藤房雄会長	専門委員会で県内のいろいろな先生方のご意見をいただき、集約してこの表現になったと思ひますが、事務局いかがでしょうか。
岡邦広 高校教育課長	この2つ目の部分については、学校側の授業としての時間設定の部分と企業側が受け入れるための時間設定のすりあわせということで、交渉のための時間をさすものではありません。
塩村公子委員	学校教育の中で企業にお願いするところと通常カリキュラムをやらなければいけないところの調整ということですね。
伊藤房雄会長	今の点については事務局で修正をお願いします。
竹中智夫委員	1番目の「志教育」についてですが、志というところについて、どのような志なのか、目指すべき志というか、提言に「志教育の推進」と掲げてあるものの志

竹中智夫委員

に繋がる説明がないので、どのような志教育の推進なのかというところについて説明をいただきたいです。志というと崇高的でレベルが高いようにも思うのですがいかがですか。

伊藤房雄会長

「志教育」について、今回“志フォーラム”のチラシも資料にありましたが、それも含めて説明をお願いします。

事務局 都築美幸

宮城県では平成22年度から「みやぎの志教育」に取り組んでおりまして震災からの宮城の復興を担う人づくりと軌を一にして取り組んでいます。今年度までに小、中、高と連携して人や社会と「かかわる」「もとめる」「はたす」という3つの柱で志教育について県全体で取り組んでいます。現在検討している「宮城県教育振興基本計画」においても「志教育」を施策展開の柱として、社会を構成する一員としての自覚と、よりよい社会づくりに貢献しようとする心を育みながら宮城の将来を担う人づくりに努めましょうということを県教育委員会で取り組んでいるということで、「志教育」という文言を一番はじめにあげさせていただきました。今回チラシを準備した“志フォーラム”ですが、他課の行事にはなるのですが宮城県教育委員会で取り組んでいる「志教育」に関するフォーラムということで紹介させていただきました。

鈴木洋 教育監兼  
教育次長

「志教育」は宮城県で今最も力を入れている、全国にない独自の教育の方針、理念でございます。小、中、高の学びを通して将来の夢や志を持ち、その中で学校で身につけなければならない倫理観や職業観、基礎的・基本的な知識等目的意識を持ち、学びをずっと続けて欲しい、そして社会に出て社会に役立つ人材に育ててほしいという願い、教育理念を持った教育でございます。教育振興基本計画も今改訂の時期で第2期を作っておりますが、そちらの中でも柱となる教育方針でございますので、ぜひ提言のはじめの部分に入れ込んだところを認めていただきまして、先ほど竹中委員よりご指摘がありましたように、現状と課題等に文言がもう少し分かりやすく盛り込まれるべきだと思いますので、後ほどその点については改善をしたいと考えております。

栗野琴絵委員

今のお話について例えば書き方になるのですが、最初に持ってきた「志教育」について県の教育の柱というお話がありましたので、例えば表現の仕方ですが志教育の部分をかっこ『』で表現していただき、今お話のありましたように現状と課題の中に県の取組等を盛り込んでいただき、県全体としてこのように取り組んでいますというように表現して、教育関係以外の方にもわかりやすい表現、説明を盛り込んでいくとよいと思います。

伊藤房雄会長

「志教育」をかっこ『』つきにするとか、現状と課題とありますが、背景から

伊藤房雄会長

書き込まないと分かりにくいのではという皆さんからのご意見がありましたので、今後事務局にその作業をぜひお願いしたいと思います。

伊藤房雄会長

最終的に、提言を一つずつA4版1枚に収める必要はあるのでしょうか。特に制約はなく2ページになってもよいということでもよろしいでしょうか。1枚となると現状と課題が濃密な表現になると思いますが、2ページになってもいいのであれば、提言の四角囲みの中身の部分について、多くの人が見て理解しやすいように現状と課題のところをもう少し丁寧にまとめていただければと思います。

まだご意見があるかと思いますが、時間も限られておりますのでお気付きの点はメールやFAXで情報提供いただければと思います。よろしいでしょうか。

本日は、委員の皆様から、様々な御意見をいただきありがとうございました。今後の専門学科の取り組むべき方向性について、参考となるご意見も多数いただきました。次回の審議会の際には、本日の皆様の御意見をもとに、最終提言案として事務局にまとめていただき、お示しいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

なお、本日皆様方から頂戴したご意見は、議事録としてまとめていただき、事務局より、委員の皆様にお送りし、確認していただきたいと思います。よろしいでしょうか。特に異議等ないようですので、これで議事を終了したいと思います。

委員の皆様、御協力いただきありがとうございました。それでは、進行を事務局へお返しいたします。

進行

(事務局 太田祐一)

議長の伊藤会長、ありがとうございました。次に次第6のその他になります。事務局から3点連絡がございます。

## 6 その他

事務局 都築美幸

それでは事務局から3点ご連絡を申し上げます。1点目は、「さんフェア宮城2016」のご案内です。カラー刷りのチラシが渡っておりますので、ご覧ください。11月12日(土)10時から14時、県庁1・2階と県庁前広場、勾当台公園を会場に農業、工業、商業、水産、家庭、看護、福祉など県内の専門高校で学ぶ生徒が一堂に集い「さんフェア宮城2016」を開催します。キッズビジネスタウンやファッションショーなどのイベントや、高校生が育てた農産物や作品の展示・販売などを通じて、日ごろの学習成果を紹介し、専門高校の魅力を発信します。昨年度12年ぶりに県内版さんフェアを復活開催したところです。ぜひ生徒の活躍をご覧ください、今後の審議会で感想やご意見をいただければと思っております。よろしくお願いいたします。

2点目です。本日の審議において、発言し切れなかったことやお気づきの点がございましたら、お配りしました意見用紙にご記入の上、11月18日(金)までに、FAXまたはメールでお送りいただきますようお願いいたします。

3点目は、次回の審議会のご案内です。12/19(月)の午後2時から県庁を会場として開催を予定しております。内容は最終提言案について、委員の皆様からご意見を賜りたいと考えております。以上です、どうぞよろしくお願いいたします。

進行

(事務局 太田祐一)

本日は熱心な審議をいただき誠にありがとうございました。

以上をもちまして、平成28年度第3回宮城県産業教育審議会を閉じさせていただきます。ありがとうございました。